

阪神・淡路大震災に学ぶ防災の知恵

あの大地震が発生してから、すでに5年が過ぎました。最近では、トルコや台湾の地震により大きな被害が発生しています。阪神・淡路大震災は、私たちに多くの教訓を残してくれました。そこで、阪神周辺のマンション管理組合がまとめた「震災対策」をご紹介します。

マンション居住者の体験

- * 今回の震災でも、マンションは比較的安全であったようです。明るくなるまでフンにくるまり、じっとしていました。むやみに慌てないで、落ち着いて行動することが一番です。
- * 何が起こったのかを把握するため、携帯ラジオや携帯式の液晶テレビが役立ちました。
- * 各家庭の電話回線は発信規制のため話中になってしまいましたが、公衆電話は停電時でも硬貨での使用が可能でした。
- * 水道、ガス、電気などのライフラインが復旧した時に、二次災害が発生したケースが数多くありました。
例えば、地震の揺れで電気ストーブが倒れたままのところに電気が復旧し、そこから火災が発生するといったケースです。避難時や復旧前には、必ず元栓や分電盤のブレーカーを確認することが二次災害の予防となります。

家庭でできる対策

- * マンションは、共用廊下、階段、バルコニーは大切な避難路となります。特にバルコニーは、隣との境界にある「仕切り板」付近や、避難梯子の周囲は整理整頓し、避難の妨げになるようなものを置かないよう注意することが大切です。

* 地震の揺れによる家具や本棚などが転倒したりガラスの飛散などで大怪我をする
場合が

あります。

また、出口付近の物が転倒すると、避難路を絶たれる恐れが あります。「グラッ」
ときたら、

玄関ドアを開け逃げ道を確保しておくことが大切です。

水のお話し

私たちが毎日使っている「水」についてご説明します。

佐屋町は、ずっと以前は数箇所の井戸から汲み上げて供給していましたが、地盤
沈下の

問題があり現在は木曾川から取水しています。取水には「水利権」という問題があり
海部郡

南部の町村は愛知県から権利を買っておりますが、津島市などは一部で井戸水を使
っている

ため水道料が安い反面、砂が混じったり洗濯物が黄ばんだりすることがあるよう
です。

木曾川から取水した水は、砂やゴミを濾過し消毒が行われます。消毒には「次亜塩
素酸

ソーダ」という液体が使われ、0.1 mg/L 混入していれば雑菌や大腸菌が死滅するとい
われて

います。末端に届くまでに消滅するため、実際にはもっと濃くしているようです。ちなみ
に、

当マンションで測定したところ、0.2 mg/L あり適当な濃度でした。

なお、次亜塩素酸ソーダは他の化合物と結合するとトリハロメタンが合成され、ガン
が発生

する危険があると騒がれたことがあります。同じ木曾川の水を使用している名古屋市
の某ビル

での測定結果は、0.072 mg/L(水質基準は、0.1 mg/L)のため心配はないようです。

送水された水はマンションの受水層へ貯水されます。共用館1階の青い扉の中に水
槽があり、

水槽は3個に分けトータルで 144 立方メートル貯水できます。

他のマンションは屋上のタンクにポンプアップし、そこから各戸の蛇口までの水圧がかかる

ようになっています。しかし、阪神の地震で建物に損害がなくてもタンクの重みで落下したり、

配管が折れた事故が多かったようでした。本マンションを施工した新井組の社は西宮にあり、

その経験から高架水槽のない給水設備を設計・施工されたものと思います。

現在は、エアコンもエレベーターも「インバータ」が普及し、給水ポンプの制御技術が進んだ

おかげでもあります。インバータモーターは給水の使用状況により回転を速くしたり遅くしたりし

同じ水圧に保つわけです。1台で水圧が出ない場合は自動で2台目のポンプが動きます。高架

水槽式よりメンテ料は多くなりますが、インバータ方式は今後も多くなると思われます。

阪神の地震後は、名古屋市のビルでも高架水槽を支えるため鉄骨の補強工事が多く行われ

ましたが、マンションでの改修工事はあまり聞いたことがありません。

停電になっても高架水槽に水があるだけ給水されますが、本マンションはエンジンポンプが

自動運転し 20～30 分間給水されます。もちろん、ガソリン補給すれば連続給水は可能です。

水槽は1年に1回清掃が義務付けられています。名古屋方面は首都圏や関西と異なり

木曾川の流水を利用しているため、急水管の寿命も長く、比較的きれいな水が飲めることに

なります。